

公文名で奈良時代の土器や硯出土



公文名松ノ木海道遺跡で
開かれた市民への説明会

松ノ木海道 (まつのきかいどう) 遺跡から

竪穴式住居や平地式住居、掘立柱建物見つかる



▲発掘された赤彩土師器

市が昨年9月から発掘調査をしていた公文名松ノ木海道遺跡で奈良時代の土器などが見つかり、2月20日、市民向けの説明会が開かれました。

この遺跡はアパート建設に伴う市の調査で、竪穴式住居6棟と平地式住居1棟、掘立柱建物2棟の跡が見つかり、この住居跡から祭礼や儀式などで使われた赤彩土師器(せきさいはじき)が出土しました。赤彩土師器は奈良時代、当時の都である平城京で使われていた食器皿を模して赤色に塗られ、らせん状の模様「暗文(あんもん)」が施されています。赤彩土師器は、地方では国や郡の役所などで、特別な儀式や祭礼に使われていたと考えられており、市によると松ノ木海道遺跡は公的な施設か、もしくは公的施設に関わっていた人の住居の可能性が高いと説明しています。

出土品には円型の陶製すずりや塩を作った製塩土器の破片、鉄のナイフやスコップの刃などもあり、市ではさらに出土品の調査を進め、奈良時代の公文名にあった都と関わりの深い公的施設が何かを解き明かしたいとしています。